

「戦後の日本に思想はあったのか」

むのたけじ氏

どうも、はじめまして。（会場拍手）今（司会の庄司さんが）言ったようなことで、7 月 20 日に庄司さんからこういう会（全国唯研大会）があって、その集会の時には地元の人間の話聞くのが普通になっているから、秋田の会ではお前さんが話してくれないかということでした。そして、庄司さんはもっぱら私が非常に年をとっているから果たして秋田まで出てこれるか御心配のようでしたが、私のほうでは、主催団体の名前に唯物論という漢字があるのを聞いて胸がわくわくしちゃいましたね。と申しますのは、18 歳のとき、1933 年、東京外国語学校 2 年生の夏のときに、私はそれこそ腕を張り上げて「俺はソーシャリストになった！」「俺は社会主義者だ！」と大空に向かって宣言をして、そのまんまのハートで今も生きているもんだから、当然唯物論・資本論・マルキシズム、そういうものとの、もう 10 代のときにもう深い付き合いがあったもんだから、戦争体制の深まるときにはもちろんそういうものにはお目にかかりませんし、戦争が終わってからデモクラシーの時代だ何だ、社会党だ共産党だといっても、新聞の広告に唯物論がどうのこうのなんて広告載るのも稀なとき、突然 7 月の 20 日に唯物論研究協会があるっちゅうもんだから、これは出なきゃいかんなーと思って色よい返事を電話でしたわけです。そしたら数日後、会の説明やなんかの手紙を差し上げますともりました。たとえば話をさせていただくテーマとして「戦後思想を問う～地方の視点から～」こんなのはいかがでしょうと言う。戦後思想を問う、地方の視点から、とても上品で穏やかで、結構じゃありませんかと返事したんだけど、してからふと 1 時間ぐらいたって、「あらおかしいよ～？戦後思想なんてなんなの？戦後思想なんてあったの？あれ、おかしいよ～？」というので電話をして、「戦後の日本に思想はあったの？」とこうやってください、とテーマを設定してもらったわけです。

私自身 90 年も生きて、戦後の日本に思想があったの？なんて疑問を言葉で出して感じたのは今初めてですよ。おそらく皆さんの中でも、日本に思想はあったの？なんて発言をした人間を聞いたことはないと思うわけです。ところが、私はそれからずっと考えてまゝ、あの～きまして、私のその疑問は正当な理由があるという風に思うようになりました。戦後に思想がないということは、戦前にもなかったということになるじゃありませんか。無思想民族だと、哀れな日本民族のはらわたを見つめなおすところから出直さなければ、我々のこのままでの行く手は極めて限られた惨めなものじゃないかと私は思います。実はそうではないということを経験して最後にぜひ言わなきゃならんと思ってこのメモに書いているんですが、まずそこへ行く前に、なぜ私が「思想は戦後にあったの？」という、そういう問題問いかけをするようになったか、その事情を分かってもらうために、昭和 20 年の、私の経験を聞いてください。

昭和20年私満30歳でした。21から新聞記者になって、そのときは東京の朝日新聞社会部記者で、社会面に載る政治記事は私の専門でした。したがって国会、首相官邸、そういう政治の中枢部に絶えず出入りして、当時の日本の、この裏の裏のところまで身を置いて感じ取っておりました。3月10日は、一晩にして10万の東京都民が焼け死ぬあの空襲のときで、もう新聞はタブロイド版のちっぽけな新聞で、夕刊はなくなる、仕事がないもんですから、私はそのときアジア問題に夢中でした。したがって東亜部に行きますとアジア各国から集まってきた情報が山のようにあるんです。ほとんどそれこそ掲載禁止、秘密、だから極秘のはんこを押したものだわ、それを一生懸命社会部の机に座ってみておりました。

そしてそれが5月、あるいは6月の始めころかもしれませんが、中国から来た資料の一片を読んでびっくりしちやった。ま、詳しいことを言うとあれだからやめますが、ちゃんと全部固有名詞を覚えています。中国の周恩来や毛沢東にも蒋介石にも汪兆銘にも組まない、辛亥革命の理想を掲げるそういう中国の若者たちの運動を、演劇を中心にやっている団体が、武漢サンチンにありまして、そこで出している新聞に載っているコランセイという人の文章が朝日の東亜部の所にひょいと（あって）見たんです。書かれたのは、昭和20年の2月の末ごろです。日本はまもなく負ける無残な敗北をする。そして、なぜ負けるのか。その敗北に対して中国の民衆はどう思っているかという事が書いてある。日本が負けるのは簡単だ、日本人ちゅうのは物事に対していつでも物事の本質を見ないというんです。本質論をいつも避ける。たとえば中国だって、こういう風に困った状態になるといいうとき、なぜこうなったかという原因やらプロセスを克明にやって根本の問題点に手を入れないで、あ〜困った困った、何かうまい手はないでしょうかコランセイさんと、おんなじ質問を毎年俺のところに来たと。情勢が日本に都合が良いと、本質論なんてものは無駄だ、情勢が悪くなると本質論では間に合わない。この繰り返した。これが日本をこういう過ちを犯し、やがてまもなく無条件降伏というものすごく無残な負けにいたるんだ、そう書いてあるんです。この日本の姿を中国の民衆はざまあ見ろとは思っていない。憎しみは持っているけれども日本がこのまま滅ぶとは望まないと多くの民衆は思っているはずだ。日本人のこの欠点を直して、そして、アジアの仲間として立ち直ってもらいたいと、中国の民衆の多くは望んでいるに違いない。それを書いたのが、昭和20年の2月です。

やがて半年後に、彼の予言が的中する。私が読んだのは5月の末か6月のはじめです。すごくショックを受けたんです。そして、8月が来ました。私どもがポツダム宣言を受諾したのは8月の12日です。8月15日は敗戦記念日って言うけどあれはおかしいんです。天皇が録音したテープをNHKが流しただけであって、日本が負けましたポツダム宣言を受諾しますと、それを連合国に通告したのは8月10日。スイス経由と短波放送と両方でやった。そのときに、受け止めました、もう負けました、ポツダム宣言受諾します。しかし、当時の日本の支配階級が、気にしたのは何か。たったひとつ！天皇制が残るか残らないか

だ。岩波新書の『昭和史』にも書いてあるとおり、その年の春頃に近衛文麿という人間が天皇陛下に手紙をやって、「日本が敗れることはしょうがない、恐るべきは、共産革命に御座候」。天皇制1つを残すことによって、日本の支配階級をできるだけ天皇制とくっつけて残そうと、それだけしか考えなかったんですよ！当時の日本の支配階級。だから8月10日にポツダム宣言の受諾を言いながら、では天皇制は残してもらえますか、もらえませんかと問うた訳です。連合軍から12日に返事が来ました。そういう問題をこそやがて日本が生まれ変わった新しい民主体制の中で、日本の民衆自身が決めることではありませんか？という返事なんです。その返事を見て、大本営の会議の中で、最高幹部会議で、これだと天皇制が残る、残らないと喧嘩を始めたわけです。そこで初めて、この極秘事項が新聞社に午後二時ころ分かったわけです。

あー、日本はもう負けた、受諾した、ということを私どもが朝日の社内において知ったのは、8月12日の午後二時ごろだと思います。そしたら、その日、当時社会部と政治部をまとめて第1報道部、第2報道部ということになっていましたが、報道部長から、「もう日本が降伏することは決まった。だから今後どうするのか、各報道部会で、社員集会やって、相談しろ」という風な話なんです、幹部から。それで、8月12、13、14日三日間、毎日午後7時ころから2時間くらい、ポツダム宣言受諾後の日本をどうすべきかということ、その当時はもう社員が兵隊にとられたり何だりかんだりで少なく、せいぜい30人くらいの集会でしたけれども、集まって話したわけです。そんな時はただ夢中で緊張しておりましたけれども、今思うとお〜っかしな話だ。この非常事態に対して、朝日新聞はどのような態度をとるかは朝日新聞の経営者がまず自らまず話せんにゃいかんでしょ！？幹部が、「こういう風に社を運営していこうと思う。社員はどう思うのか。何をなすべきか。」ということになるのが普通なのに、社の幹部からウンもスンも言わずに、ただ30代40代の記者たちに任せて何とかして考えろと。考えようもないわけだ。のそーっとお通夜みたいな中でしたよ。そして結局、このままでいけば、朝日の社屋に掲げた日の丸、あるいは社旗、朝日の社旗あるいは日の丸の代わりに星条旗をぶら下げて連合軍を迎えてずーっとただ惰性で新聞を出す、という格好になるのはもうはっきり見えたわけです。私はそのとき満30のハートで考えて、

「こんなことをやったら同じ過ちを同じ手順で何度でも繰り返す、これほどばかげた惨めなことはない。こんな過ちは戦争中真実を報道しないで大本営発表をそのまま民衆に伝えたあの過ちを繰り返すことになるし、罪を償うことにはならないし許されない、ということで、幸い朝日はすべて減価償却されているから、この際、建物やすべて社会に寄付をして、社員全部やめて、新時代にふさわしい新聞作りに適する人間、そういう人間たちで新しい新聞を創るしかないじゃないか。」

という意見をしゃべったわけです。誰一人反対しない。そうだと。だけどやるとは言わな

いんです。1人だけ、

「むのくんのいうようにやったら俺は失業しなきゃいかんけど俺は女房子どもを養えなくなるから困る、だから俺は、むのくんは俺を笑うかも知らんけど、飯食うために会社に残る」

というから、俺は、

「何で俺が君を笑うもんか。君は満座の中で自分は本来こうやらなきゃいかんけれども飯食うためにはこうだとみんなの前で言ったんじゃないか」

と。

「それはそれでひとつの反省であってその気持ちを大事に伸ばしていけばそこに新しい道が開かれるだろうが、うんともすんとも言わず反対も言わずズルズル行ったらどうなるのか。」

結局12、13、14日なんの結論も出ない。会社の経営者からも何にも出ないから、私は立派義なことを言って誰も一緒に行動しないから、じゃ俺も残るとはいえないわけですよ。だから14日の日に、「本日を持って朝日にさよならします、明日から来ません」と。辞表なんか何も書かないですよ。口で言ってそれをずーっと実行しただけ。何度も誘われても、もう戻らなかった。そしてご覧のとおり、12日にそれが分かっていたながら、13、14、15、打ち消し山戦はどこまでもやるんだという新聞を出した。突然16日になって戦争は終わったという新聞を出した。

そのまんま惰性ですよ！なぜなのか。日がたつてやがてドイツと日本との違いがはっきり分かってきた。ドイツは、ナチスの戦犯を、ユダヤ人虐殺の戦犯を探すために、南米の山奥にまで捜査の手を伸ばして突き進んだ。私もあとで、70年代80年代、東ドイツの部門を中心に回りましたが、本気になってあのユダヤ人虐殺に対する自分らの罪を悔いてますね。小さな町へ行きますと、広場があつて、そこへ標柱が立ってる。「何年何月、ここへユダヤ人何十名集めてアウシュビッツへ送った。この悲しい思い出を繰り返してはならん」小さな町でも書いてあつて徹底してやってる。ドイツがやったのに日本はなんでやらんのか！やがて時間がたったら、広島・長崎を例にとつて、唯一の原爆被爆国。それだけを言うんです。加害の側からの自己反省というのは、ほとんどないでしょ？日本で平和運動があつた昭和27年の秋です。それまでは平和の「へ」の字もなかった。マッカーサー司令部のもとで、北京で、アジア太平洋地域平和集会をやるから日本から来ないか、と言われてやると動く。まったく、惰性のままずーっと来てる。被害を言うけれども、加害という、こういう立場で戦争の全貌を見ない。この太平洋戦争は何のために誰が起こしたのか、現実に何をやったのか、そのことで誰が責任を負うのか、それじゃ日本だけが悪いのか、ABCDラインといった、あのアメリカ・イギリス・中国・オランダの側には責任はないのか。裏表をめぐり返して検討するということは、新聞社の中でも誰もやらなかったんです。新聞社の人間の大部分は大学を出て、知識人・文化人の代表みたいな顔をして、そこでも問題をめぐり返して、左右から見る、相手の立場にたつて考える、こっちの立場に

たって考える、そういう往復作業は全然ない。ずら〜っとのっぺらぼうです。ここに思想はありますか？この経験があるもんだから、戦後思想はありますか、それを問うと、そういったときに、戦後の思想なんて簡単に言って良いのか、私が疑問を持ったのは当然でしょ？それでそういう演題にしてもらったけれども、さーて、それでいいのかなーと思って、私はいつもの作業を、自分で1人でやりました。

思想を語るあんた方にこういうことを言うのは、こっけいかも知らんけれども、もっと言葉に対して厳密でないと、日本人のやっている学問なんてみなフィクションにもならないですよ、本当に。私が40年前、三省堂新書から第1号として、高校三年生大学1年生向けに人生学習社会問題の認識の始まりを短い文章で書いてくれと頼まれてやったときに、その本の冒頭に旧約聖書の、バベルの塔の物語を引用して、写真まで入れてもらった。写真というのはその絵の写真ですが。それはなぜか。そういう恐れを40年前に感じておったからです。言葉に対してあまりにもいい加減だ。ぜんぜん厳密にしないで、分かったものとしてお互いに使っているけれども、実際には分かっていない。だからコミュニケーションなんて日本では成り立っていないんです。言葉に対してあまりにもルーズで、不勉強だ。だから、あのバベルの塔というのは、メソポタミア人の思い上がって神の変わりに地上の種を支配するというというから仮に神が罰を与える。それはバベル現象、言葉の乱れだ。そういうことが人類をどんどん蝕んでいくという恐れを私は40年前に感じていました。それは当たっているんじゃないですか？ブッシュ Jr.は20数万の軍隊をイラクに動員している。数万のイラクの民衆を殺傷しながら、そして今も今日も居座っているながら、民主的で平和な新イラク共和国を作るなんて、おもちゃ遊びのような戦場ごっこをやっているんです。そのブッシュの尻馬に乗って、イラクは戦場だけどサマーワは非戦闘地帯だなんていって、1回550人をすでに8回も入れ替えて、何やら米軍の下働きをやっている。ブッシュは戦争と平和をもう全くくっつけて使っている。その日本の自衛隊を送り出す日本の憲法第9条には、平和を守るために、国権の発動たる戦争も、部隊も武器もすべてを捨てる。戦争と平和というものはまったく別個だという。まったく異なるものが、同時にイラクの戦場では同じ論理で使われている。こんなに滑稽なことはないじゃないですか？そういうことがあるもんですから私は、大事な言葉にぶつかったときは必ずすぐ言葉の吟味をやります。

言うまでもなく思想という言葉は、幕末明治の初めに、横文字のシンキングソート、あるいはパンセ、アイデアという横文字に対して日本語を当てはめるために漢字を福沢諭吉らが苦心しながら当てはめたもんです。ほとんどの学術用語科学用語は、みなそのときに生まれたもんです。1973年北京大學へ行って丸1日、あそこの先生や学生としゃべったときに、学生の1人が、

「漢字は中国で生まれたけれども、私どもが使っている今の学問用語は全部日本から輸入したもんです。」

ちょうど文革の最中でしたが、

「無産者階級、文化大革命の中で、中国本来の漢字の意味で使われているのは、「大」だけです。無産者も階級も、文化も革命も、全部明治初めの日本人がつくってくれた言葉ですね。」

思想もそうです。パンセに対する科学用語として明治の文化人たちが知恵を搾ったものなんです。ずいぶん苦勞したらしいですよ。リバティーなんていう言葉に、最初は気にして御免の「御免」で付けたんだって。あら、おかしいというんで自らによる自由になるまでにずいぶんあれこれあったんだって。思想という言葉は当てはめた。ところが、思想専門家である皆さんはご存知のとおり、すでに当時日本では徳川時代から、思想という言葉を使っていたわけです。あとで申しますが。それと、**think, thinking, thought, idea** それと徳川から使っておった思想と合うか合わないか解りませんが、当時の福沢諭吉らが思想とした。それでは、ここで今日、あんたがたに、そういう演題をつくった人間の責任として、この演題が適切かどうかを証言しなきゃいかん、と書いていつもやるようにまず中学生・高校生の使っている国語辞典、次に広辞苑、諸橋 轍次の漢和大辞典、それからジャポニカ百科事典、それから藤堂明保の象形文字としての漢字の成り立ち。この 5 つで思想を確かめてみました。そしたら中国でも深く慮る、いろいろ深く考えるという意味では、ずいぶん昔から思想という言葉は使われているという文例がいっぱいありました。それから広辞苑その他でも単なる「考える」ではない、直線的なそういう頭脳のはたらきではないというようなことを念を押してありました。そしてそれを思想という言葉のこれがあるから、思想、これがなくなればただの考え、思想ではないというキッチリしたものだけは、この 5 つの中でずーっと共通して述べてますね、やっぱり。それは何か。右を見たら左を見る、上を見たら下を見る、ね。必ず両方から往復するということですよ。頭脳的作用を必ず往復させて、そして、両方をつき合わせて本当のところは何かを確かめる。これが「思想」なんです。1つじゃない、直線コースじゃない。ものごとの本質を問わずに、事の結果だけ見て自分に都合の悪いことを言わないようにしようと辻褃合わせてただ直線コースの惰性そうじゃないんですよ。辻褃あわせなんです。思想というものは矛盾するものを合いぶつけるまさに弁証法なんです。

それだけはキッチリどこの本でも書いてあります、それを一番よく表したのが思想という言葉そのものです。藤堂明保の象形文字見ると、私も初めてでした。思想の「思」の上は田んぼだと、そうじゃないの。本来の漢字はあの十字じゃなくて×点。四角い中に×点は何を意味するか。赤ん坊の頭を上から見た骨組み。赤ん坊の頭の骨を表した文字。それで「頭」。生まれてまもなくの人間のこの頭脳を頭。心は心臓からかたどった心、ハート。つまり頭と心と両方、知性と情緒の両方から確かめる、これが思想なんです。「想」という字がそうなんです。上の「想」は木が目と書いてある。木がある、それを目が見ている、見つめている。だから「想」という字の中国の象形文字は「向かい合ってる」ということなんです。そして向かい合っているのを心ではたらいて見る。必ず 1 つじゃないんですよ。二つのもの、

その対立構造、両側から確かめる、これが思想なんです。

それがほとんど無いじゃありませんか。あの太平洋戦争、15年戦争どうだこうだと言って、加害と被害の両側からジーンとドイツ人がやったようなことを誰もやらないじゃないですか！どっかの大学でやった？全然無いんです。これ日本人の、そういう風にして考えると、戦後に思想なんか生まれもしなかった。それで私は、それが戦後60年の中で朝日時代のその昭和20年の経験があって、約30年ずーっとそうでないんです。なぜあのときに、ああいうことになったのか。なぜ踏みとどまって、金を払って新聞買ってくれる読者たちを裏切ったんだから、その罪の償いをするために何をやらなきゃいかんか、何でも問題めくり返してみんなで考えようとしなかったのか。日本人で、それほど恥知らずなのか。そういうことでずーっと考えておりました。その悩みに拍車をかけたのは、私は8月14日にそうして（朝日を）やめて、だから私はあれですよ、私は朝日から（みると）異端者なんです。朝日新聞労働組合の歴史を書いた本では、むのたけじの退社から書いてあるそうだけど、朝日そのものでは私はもうとにかく辞表も出さず、辞めろとも言わないのに勝手に辞めた悪い人間なんです。かつてむのたけじという社員が朝日に存在したなんてそういう記録何も無いですよ。全くみつかってない。そして戻れ戻れといっても戻らない、悪い人間だから。そういう風にして褒められている訳です。ところが、8月の15日・16日新聞出しながら、9月に入ったら朝日・毎日・読売、新聞記者が次々と辞めていくんですよ。後に朝日新聞の社長になり、全日空の社長にもなった美土路昌一も辞めて岡山へ帰って酪農、牛飼いをやりだした。後にテレビの時事解説で名の知られた入江徳郎もやめて福岡へ帰って行く。どんどん辞めていくんですよ。やっぱりこのままではおかしいと思ったわけだけど、そういう気持ちがあるならば、なぜそれこそ個々のそういう良心の辻褄あわせでなくて、なぜ集団としての行動を8月段階でやれなかったのか。そしたら、美土路さんも入江くんも半年後帰るわけだ。つまりそれは何かというと飯食うために。結局、新聞記者をやっておって新聞記者以外の仕事はできなかった。

これで聞きたいんですよ。思想ってものは覚悟なの、喋るものなの？大学で講義するものなの？違うんじゃないの？思想ってものは生きるものじゃないの？思想は生きるものだという考えが無いんだよ。だから、8月段階のあの強烈なショックを受けながら、命を懸けてどう新しい道を歩むかということ、我々日本人は、行動として表現できなかったんじゃないですか。科学というもの、なんか知らんけどしゃべって本にして文章にして、それで飯食い道具にしている、そういうことの繰り返しじゃないの、明治元年以降。本当の人間の命の証、生き様そのものだ、そういう人の重い志、それを捉えるということは日本ではなかったんじゃないの？時間が無いからここで申しますが、こういう基本の問題、基本の問題があるということ、それが、どういう風に、それ以後の状況に、悪影響を及ぼしたか。あるいは、悪影響ではなくとも何らかの結果を生んだか、3つのことを是非考えてください。

1つは、敗戦当時のこういう日本人の状態だったために、こういうことを言う日本人はわたし独りしかいないけど、日本民族始まって以来で最高のすばらしい生き方を9000万人でやった、その事実を評価できないわけです。本物の思想が無いから。本当に優れたものを見れない。これが1つ。それがそのあとの今日まで続く日本社会のこのおかしなていらくにそっくり拍車をかけてしまった。ところが今いう日本人のすばらしい生き方、これが、ものすごい素敵な事実を、生きるということの中でつくっていったと、日本の希望はそこから始まるということをおしまいと言うと3つのこと。じゃあ何があいだか。敗戦当時そういうぶざまな状態、新聞社の中でも。けれども、日本人は生きなきゃいけなかった、何しろ近現代史に例の無い無条件降伏でぶざまな状態。そういう中で当時9000万といわれた日本人はボンとぶん投げられて、最強の軍隊だという関東軍はもう一般の民衆をぶん投げて自分だけサーッと逃げ帰った。そういう状態の中でも生きていかなければいかんかったです、当時の民衆は。私は30で、子どもは2人おりました。生きなきゃいかん。みんなそうだ。それからの60年安保までの、15年間の日本人の生き方は、実に見事なものでしたよ。それを気づかないで、当時生きた日本人は、なーんとまんま金もないと、まあとにかく貧乏であれでと苦労話だけ。それは思想が無いからです。もう輝くようなダイヤモンドみたいに輝く日本人という人間の立派さ。ところがそれが思想が無いもんだから、惰性でアーッと。無我夢中で生きたんですよ。どういう素敵なことがあったか。天皇の軍隊は負けないと、負けちゃった。神風が吹く、吹かない。事実によってあてになるものならないものを、我々民衆はもう身にしみてわかったわけです。したがって当てにならないものは当てにしない。こういう生活の基本が決まったわけです。自分がちゃんとしななきゃもう自分は守れないんだということ。これこそ、人間という生き物が数百万種類の生き物のなかでたったひとつ明白な特徴である二足直立歩行、自主自立、独立独歩、そこへボンと戻っちゃったわけです。だから当てにならないものはもう当てにしない。自分らだけでやる。

そして自分を見たときに2番目、自分にとって何が大切？誰がいったか知りませんが、人一人の命は地球よりも思い。自分の命の大切さ、そういうこと無いでしょ？それまではずーっと明治元年から我々は、申し上げますが、日の丸のあの君が代なんて我々の子どもころはあまり唄わなかったもんですよ。天長節なら天長節の唄、元日なら元日の唄、君が代をまるで踏み絵のように使ったのは昭和になってから、最近のことですよ。君が代を決めたときに真っ向から反対したのは学習院ですよ。「君」というなかに王様の意味があるが、辻君という淫売婦の意味もあるんだ。こんなもの歌わせるかと言ったのは、あなた、学習院ですよ。あの歌を文部省が小学校で歌わせた。だから我々のときはもう運動会でもあの君が代が、文部省が言ったのは運動会などで歌わせるのがふさわしい。だから今はプロ野球と相撲でやってるじゃない。我々は運動会の時だって別の歌。～♪すすめ矢の中雨の中 飛び込め剣の霜の上 わがしのもとる武士のなを あぐるは世界に今日なるぞ♪～とにかく霜を降ったような剣の銃剣の中へ飛び込んでゆけというちょんだもんな。命をも

うとにかく羽毛よりも軽く扱って天皇のために尽くすのが一番いいことだと。そうやってあんた 100 年近くもやられた後初めて「人一人の命は地球より思い」。そっから出たものは、自分の命がそれほど貴重なら他人の命も。敗戦直後の人間はものすごくあれですよ、人に対して優しい。天声人語を書いた、新垣秀雄の伝記を買うからって 10 月に先だって問い合わせが来ましたが、彼は自分の家が焼かれたから銀座の焼け跡の瓦礫の中で暮らしておったけれどよく行っておったけれど、女の子が夜そういう真っ暗い銀座の中強姦されたの 1 人もいないよと。本当ですよ。だーってあなた、お互いに同じような痛みのなかで、弱い者がおったときそれにのしかかって犯すなんて出来るわけない。すごく、そういう意味では、刑法犯は少なく、人は優しく、支えあう。見事なもんですよ。

そして、おしまいに、平和国家、文化国家、福祉国家でがんばりますから、とにかく国際社会に仲間入りできるだろう。創意工夫をはたらかせる。物事に対してものすごく鋭敏な感覚ですよ。だから、1960 年の安保、現代の自衛隊をイラクに出すなどとは比べ物にならない、危険度は何万分の 1、日米行政協定を延長する、それはだめだ一危ないといって 70 万の人間が集まって、国会議事堂をぐるっと囲んであなた、岸信介がもう歩けないと言わせるほど。それほど潔癖な正義感を当時の日本人は持っておった。すごいですよあなた。フランスの新聞記者たち、こういう状況がもしパリに起こるならば、わがフランスでは革命が 2 つ行われるとまで言わせて、あの 15 年間は日本人は立派だったんです。そこに、もしも我々に、思想する生き方があれば、この 15 年間の経験を、ぎゅーっと歴史の道しるべとして、キッチリ確立していったはずですよ。ところがそれが、思想がないもんだから、それ自体が惰性ですよ。そして、岸信介が辞めて、池田勇人が首相になった。貧乏人は麦を食え食えと大蔵大臣のときに言った、その池田勇人が首相になった。何を言ったか。国民の所得を 2 倍にする。実際 2 倍に出来るだけの経済的な力が 15 年間で出来ていたんですよ。創意工夫をはたらかせ、乏しい材料で、出来るだけいいものをつくろう、と。しかも兵器産業はだめだ平和産業だ、生活産業だ。だから、アメリカへ旅行するのなんか見てテレビの映りがみんなアメリカ製、あ〜いいな〜と、みんな日本のものでしたよ。それが、奇跡の、高度成長、経済復興ということになった。そこへズルズル〜と行っちゃった。

だから 2 番目に言いたいのはそれなんです。ズーっとあの 60 年安保のあの 70 万人の燃え上がりがあったものが、何故に崩れたのか。何故に高度成長に飲み込まれて、浮かれていったのか。そこに対する分析・批判、本質の究明、誰もやってないじゃないですか。そして、やがて報いで、実は世界経済全体から見れば一時の狂い咲きのようなものであって、バブルだ、水の泡だ、水ぶくれの、そういう中味の詰まらない、詰まっていない、水ぶくれのこういう風船玉のような、そういう繁栄だったということなんです。そしたらバブルは水の泡ですから、水の泡経済といたらいいんじゃないの。それを横文字でバブルバブル。あたかも高度成長に伴うやむをえないようなものだと。そういう風な考え方でごまかしてきたでしょ。そして、90 年代以降、マスコミ報道を見れば何か。「先が見えない・

読めない。「不透明の時代」。自分でマスコミが勝手に言って実はこれほど解り易いことはないわけだ。正反合の論理にあわせてやればなるべくしてなったもんなんだ。そして10年ぐらいやっているうちに、アメリカ経済自体が容易ならぬ危機にぶつかった。中東の石油市場を掌握して何とかせなきゃいかんということで、サウジアラビアを動かし、イラン・イラク、そこに軍事冒険を持ってきた。そしたら、活況が出たらごらんのとおり、資本主義の矛盾を解決するために、もう国家もへったくれもない。上海・北京周辺に10万を超える日本の中小企業、大企業が出て行った。日本の工場が空っぽになっちゃった。それほど国と、要するに国境を否定する、そういう形での、資本主義の生き残りが1つ。もう1つは、ベンチャー企業と称して、これまで商売の対象にならなかったものを、頭をはたらかして新しい業種を開拓する。そこへ各大学が夢中になって協力しているわけでしょ。そいで息を吹き返そうとしたら、最近、5～6年前から、すこーし元気が出てきて、今度は「不透明の時代」とは言わない。何か活気がある。そっから来るムチをやるために、文部省はなんということでしょう。資本主義そのものでは国家なんてもの、国境なんてもの、全く無視して銭儲けをしていながら、愛国思想を今の小中高校生に植え付けようとする。矛盾を平〜気でやってる。これが日本じゃありませんか。これでいいでしょうかしら。最後の1つを言う前に、まあ、今度は会う機会もないでしょうから、この機会に言いたいと思います。

こういう日本の無様に何が、なぜ起こったのか。私は20代のとき、これは明治維新以降、明治維新は非常に近代革命ぶったようなことをあれこれ教科書ではいうけれども、実際はまるきり違うんだ。絶対君主制の下で、それを隠すために、ちょこちょこ〜と近代めいたことをしたけど、あの明治以降の昭和につながってくる歩みの中に、大きな我々は過ちを犯していたんじゃないか。何よりも大学の先生方に言いたいのは、学問が、科学そのものじゃなくて、富国強兵の道具であり、教授たち学校自身にとっては自分たちの飯食い種として、自分たちの肩書きをつくる道具。本当に民衆のため、真理真実のため、人間の生き様を高めるため変えるため、そのための栄養分だという捉え方は、極めて少なかったんじゃないですか？私はだから、夏目漱石とか、ああいうものをもてはやすあれとはもっと違う明治の捉え方をきちっとこの際、あそこに、見直しの目を加えないとだめじゃないのか、明治からやり直す、私の20代そのことを考えました。それで、もう何十年もほうりっぱなしの本棚の中に、明治関係の文献が相当いっぱいありますが、私はその20代のとき、それをそういう明治からの日本の偽近代の再検討、そこで何が間違ったかをもう一度やろう、ということ、何としても若い方々にやってもらいたい。たまたま私のところへ雑誌から頼まれて取材にきた40代の物書きの女性が、なんていうことはない明治と取っ組んで、岩波（書店）から、4千何百円の本を出しましたし、文芸春秋から、日露戦争の再検討、いかに朝日新聞が戦争を利用して、新聞のなかで一番ひどいことをやったかを暴露した新書がつい数日前に出ました。そしたら、サントリーという会社が、本当の学術のために20何年前から100万円ずつ金くれるんですね。そこへその無名のライタ

一だった彼女が、たった一人選ばれて、7人の大学教授と一緒に先だって、ご褒美をもらってましたけれども。そういう人間がでてもらうように、私も明治見直しを1つの運動として、是非やりたいという気がします。

ところがそれが20代で「たいまつ」をやったらもっと違った。もっともって根深い。実はこれは、要するに室町時代今の農村社会のほうで、基盤ができて、秀吉がなんかが出て来てから家康、そして明治政府とくる。日本の歴代の支配階級のもっとも利用した手口が、「すりかえる」ですね。「すりかえる」本当のところを隠して、カモフラージュして、それに対して民衆は真っ向からぶつかっていった。徳川家300年、260年のなかで、最後の150年間で、記録に残るだけで3000の焼き討ちをやっています。みんな首をぶった斬られた。明治の政府になって、明治元年にこの東北の郡山から、地主階級の反政府暴動が起こった。9年間続いて、45万人の前科者が処罰された。しかも首謀者は首を三番ぬきにぶった斬る弾圧を加える。こういうものは日本の教科書にぜんぜん出てないでしょ、あんた。日本の民衆は決して権力に対して弱くはなかった。けれども、すべて末路は無残だった。だからすりかえる権力に対して、我々民衆の側は、すりぬけるな。出来るだけまっすぐぶつからないで、ひゅうひゅうひゅうとこうすり抜ける。これこそ日本に思想を生まれさせない、土壌の土のこの土台の問題ではないかという風に私は思っています。そういう問題で「たいまつ」出しながら、そいで32年前に、『解放への十字路』という本を出しまして、民衆弾圧の一番の悪い手本を出したのは豊臣秀吉であり、それを拡大再生産したのは家康だというまあ本を出しましたがけれども、私はそれがそのまま続いて小泉内閣の先だつてのあのおかしげな、今なお解らないでしょ？何であんなことになったのか。ご覧ください。小泉劇場とか小泉マジックとか言っておるけれども、誰がああいう風に仕組んで何やったのか、ぜんぜんマスコミも解明できないじゃないですか！芸能タレントを政治家につかうのをやったのは、田中角栄です。扇千景とかああいう連中を今参議院の議長をやってああいうのをやって、あの時はご覧のとおり大変な騒ぎだったでしょ？何ヶ月もの間。今度は何ですか？37人の刺客。3日4日でオーッと出た。全部つかず動かずの無党派層というのが38～40%あって、そこを動かしにかかった。今度はそうでしょ、今度民主党が大敗北して自民党が勝って、327人3分の2以上。憲法49条によって、第2項によって、どんな独裁政権よりも、あらゆる法律を自分の思い通りに自民党と公明党で通せる体制つくった。これは、誰が、何のためにやったか。誰も解らないじゃないですか。小泉自体が踊らされているでしょ。もう彼はそういう327持って、あらゆるもう全知全能ですよ。これからやることにへまやらかしや彼はもう言い訳できないですよ。だから今度、年金、議員の年金でも民主党の意見を取って、自民党を敵にまわす。もう彼は自分の末路を自分でつくっとるんです。全知全能の神のように彼は振舞わなければならない来年の9月まで。もたないんだから。小型ヒットラーはヒットラーと同じ道を歩くんです。独裁者は必ず、自分の末路を自ら決定・自作自演するもんです。もう小泉にそれは始まっています。

だけど、それは誰がやったのか。小池百合子自体が、足を一度も踏み入れたことのない選挙区へ行って、公示8日前から歩き回っておって、そしてしゃべることは「郵政民営化は構造改革の本丸です」。決まり文句言ったら当選した。自分でもおかしいという。なんなのこれ？7パーセント投票率が上がったでしょ。1パーセント上がることは全国で100万（票）ですよ。7パーセントは700万です。700万が動いたってことは、主として都市部だ。そしたら、これまでは民主党が続々当選をしおったあの東京で、たった一人しか当選できなかった。全部自民党の若手だ、八十何人も新人が出た。その新人は何か。無党派層と称するのは20代半ばから30代半ば。この階層は、いじめられ世代といわれるような欲求不満を持っている。英雄にあこがれるくせして自分では、自分自身の弱さに気づいている。その好みに合うような新人候補がずらーっと出たでしょ？30代40代、まじめではない。軽薄短小という言葉がぴったりで軽くてさわやかで、どーっと当選してしまった。まるでこれ・・・しかもそれあんた小泉が悪い訳ないでしょ、自ら踊らされているんだから。誰がやったの！？さっき実は少し言いかけたけど、今日はここでは言いません。ここだ！と疑っている場所を言えるのは俺しかいないもんね、今日本で。沖縄ですよ。全く踊らされているもの！こんな日本で明日ありますか！？

そう思って今日まで生きてきましたが、文部省のおかげで私は、ものすごい希望を感じました。それはなにか。3年前から総合学習というのをやりまして、そしたら横手市の中学校・高等学校が、私と生徒とのつながりをつくってくれと。高等学校では、1年生の入った夏に、将来何になりたいかという希望をやって、たとえば、行政になりたいというのは行政へ勉強にいかして、私のところへは著述家・物書きになりたい、小説家になりたいという連中が話を聞きに来る。去年おとし、文部省モデル校で中高一貫校、これが横手にも出来た。そしたらそこでも総合学習で、大人の仕事、大人の生活を学ばせようと、1年生80人を20～30人ずつのグループに分けて、大人の生活をしたい。それではむのさんの所にやりたいですけどいいですか。よろしいです。そういう若者たちと接触して、びっくりしちゃった。単なる1人2人の子どもじゃない。全部に共通する性格。全く私の見たことのない日本人が現れた。それが1945年から60年安保まで、当時の民衆が懸命に生きた、あの生き方と、符合してるんです。何か。当てにならないものをぜんぜん当てにしないんです。もう人間を人間そのものとしてだけ見る。だから私に対して「むのさん」「むの先生」なんて誰も言わない。向こうが10代だ、私のところに来るのは14と12の娘たちが多。全く対等だもんね。「むのさん」「むのさん」。先生なんてぜんぜん言わない。年齢、肩書きあるいは性別、家柄、財産がある、そういうこと一切見ない。彼ら人間として対等なんです。ここが大事じゃないですか！？私がそういう風に言うと、

「今の10代のなかで、教師に対して乱暴やったり親を殺したりする子いるじゃないか」と、必ず大人は言いますよ。そして大人に言いたい。

「ならばお前が1970年代の警察庁の統計見てみろ！当時の10代の刑法犯と、今の犯罪とどれだけの違いに違っているか」

と。何分の一も少ないですよ。悪事をしなくなった。たまに出ると何か。理由は簡単だ今の私の言葉で言えば。子どもは子どもだから親に従わなきゃいかん、そうは思わないです。教師だから教師に従わなければならないとは思わないです。今の10代は。対等なんです、人間として。全くそういう点では当てにならないものは、当てにしない、人間そのものを見る。あとで申しますが、このことをまた～（テープ裏面へ切り替わり）～その学校に言って中学1年生相手に、

「むのたけじは90歳のくせしてもうとにかく大きい声出す。」

まるで相手対等の人間にも言うように。

「われらを子どもとして生徒として一度も見なかった、こういう扱いを受けたのは初めてだ。」

それらをしゃべるときの彼らの顔の美しいこと。それを求めてるんですよ。だから、親の権威なり教師の権威なり振舞ってくれば、強烈に反発するんじゃないですか？だから、将来の希望と聞いたって、昔のような当てのないような陸軍大将になるだの大臣になるだの絶対に言わないですよ、実に地味だ。私のところにいた高校1年生の、生徒の、著述生活やって、お金はどういう風に入って、何に困ってますか、まるで自分で物書きやって飯食ってるような質問をどんどんやる。本当に地味です。当てになるもの。我々はケセラセラで生きてきたんですよ。大正世代は、明治時代。何今困って、まあまあ、そうあまり面倒くさいこと言うな。これが中国人に言われた本質を見ないあれなんです。まあ何とかなるさ。それを今の子は言いませんよ。そして、自分たちに対する確信、自分たちで努力をせなきゃいかん、それをやっぱり解っているんですよ、今の10代は。その中高一貫校の、中学1年生の、12歳の女の子がふたり私のところへ来て、著作生活がどうで、本を読むときどうすりゃいい、若者に何を望むか、いろんなことを聞いて、そして学校へ帰って各グループのみんなで報告した。私のところへ来た12歳の少女2人は、何か大きな紙にむのたけじはこういったという報告を書いた。そしたら80人の1年生がみんな聞いておって、その話はお前たちが聞くだけじゃだめだ、みんなで聞かなきゃだめだ。そしたら男の子が2人名乗り上げて、俺らが加わって4人でチーム作る。学校と交渉してむのたけじの話を1年生全員で聞くように学校へ交渉しようということになった。

学校へ交渉したら学校から来てくれますか？ああいいです参ります。そしたら今度は子どもたちが、あのむのたけじは生徒が聞くだけじゃだめだ、社会の問題も含んでる、戦争の問題も含んでる、平和の問題もある、あれは親にも聞かせなきゃならない。そしたらある子が、「新聞社にも放送局にも言え！」と言ったんです。社会人も呼びかけて、学校当局で校長以下2時間さいて私は出かけました。放送局は、生徒の働きかけでなくて、秋田県のR日本テレビ系の放送局が3年前から私が死んだときにつかうつもりでしょう、むのたけじの行動をずっと撮ってるもんだから、が一っとテレビすえつけてやった。そのときの子どもたちの顔があとで30分番組で2～3度放送されました。美しいことの何の。本当に純粹ですよ。そういう行動力もある。その中の1コマ私はいまだに忘れないです。むの

たけじの話を聞いて、「あなたは何が一番参考になりました？」とか「あなたは何が一番胸に響きました？」という質問。そしたら、私の家に訪ねてきた12歳の体の小さな普通の少女、その少女が私の家に来たとき、用意してきた質問をいっぱいした後で、

「おしまいにもう1つお願いいたします。むのさんをもっとよく理解するために、むのさんの初恋体験を余さず話してください。」

とこういうもの。90になる俺顔を紅くしちゃった。

「ロマンスのある話をあなた方にしゃべればいいけれども、実は私は小学校のころ、年上の女の子にほれたけれども、物も言えずにすぼんじゃってね。だから、初恋物語のロマンスしゃべれない。だけど、1つだけいう。あんた方も将来大きくなれば男の子好きだどうだこうだ、惚れたはれたということになるだろう、だけど1つだけじいちゃんは言うておく。男と女は惚れたはれたすきだ一は一、一緒に遊びたい、そんなことはたいしたことじゃーねーもんだ。愛なんてものはそんなもんじゃねーぞ。お互いに相手を尊敬する。人として敬う。どっちも。そういう敬いあうというこれが土台になきゃ、愛なんて語ったってだめだぞ！」

と私言ったわけです。そしたらそれをテレビのレンズに向かってしゃべりながら、

「私はむのさんにそういわれた言葉を一生忘れないであれします。」

その顔の美しかったこと。そういう10代が生まれているんですよ。隔世遺伝のように、あの敗戦直後からちょうど50年くらい経って、それを大人たちが受け止めているのかどうか。現にそのとき子どもたちは自分の親に向かって、むのたけじの話を聞いて親子で一緒に考えよう。教師たちは聞きにきたけど、子どもたち80人のうち6人の親しか来なかった。そいで教師が、

「せっかくむのさんの話を聞いたから、それを聞いて何と思ったか、感想を書いたらどうなの」

とひょっこり女の先生が言った。そしたら、40人がその日に書いて残りは次の日にそっくり私のところへ持ってきてくれた。私はびっくりした。目が私悪いから字が見えないんです。ものすごくきれいな字。全部。そいで多分、先生が全部清書したんじゃないのと言ったら、

「とんでもない。これは子どもたちがみんな書いたんです。」

中味のすばらしいこと！湯沢町の平和団体にそれコピーして売って歩いているよ、今。日本の子どもにはこんな声がある。

おしまいに、私は、中国の魯迅さんの言葉に一番深く影響を受けたと思います。中でも、この中国語の翻訳しにくいでしょうが、野草の中に出てくる野の草とか野とか「絶望は虚妄である。希望もそれと同じだ。」これを竹内好がいました。「絶望の虚妄ならば希望もまた等しい」とかなんとか。絶望がうそなら希望もうそだということ、私はこれをひっくり返して、「絶望が本当なら希望も本当だ」と言う風に自分は。だから世の中の絶望、こんなにだめな、こんなに駄目な、おかしい日本をまっすぐに感じ取り、絶望できる人間、そ

れが希望をつくれる人間だと思っているわけです。そういう風に、ま、言葉を言い換えて、自分を励まし、人にも言ってきましたけれども、今は、90になってしみじみ思う。絶望は希望の中にあり、希望の中に絶望があるんだということです。私は哲学のことよく勉強いたしません、結局思考のこの思想、思うという人間の精神のはたらきのなかで一本筋を通してきたものは、ソクラテスからアリストテレス、カント、ヘーゲルと、そして現代までの弁証法だと思います。今、21世紀の初めの、人類がそれこそこのままで行けば、滅亡するなんて上品な言葉は当てはまらないんじゃないの。アイスクリームが夏の日でどろどろ溶けとるように、人類は今溶けて消えつつあるんじゃないです。この、それこそ絶望の中の絶望、この中に即希望がある。それを発見し、それを育てるためには、まさに弁証法に弁証法をぶつけて、それ自体をぶつけあげてそこに新しい人間の精神の新しいはたらきを導いていく重い志、道しるべを私たちはつくらなきゃいかんのではないのか。そういうものにつながる、かつて日本にはなかった新しい世代が、今10代として、現実に、全国のいたるところにいる。私はいろんな人に聞いても、ほとんどみんな、そういわれるとそうだ気がつかなかったという人はいっぱいおられます。現実にそういう人間が生まれてきておる。それをどういう風に受け止めていくのか。今の段階では私はそれについて何もいえない。ただ、そういう新しい世代が、生まれている、その人々は育っていくだろう、その人々のために我々のようなじじいはできるだけ力をつくさなきゃいかんだ、と思っているわけです。

だから、絶望の極みと、希望の極みの両方を抱きながら私はあと数年生きて、さ、ここですべていいかな？ものすごいラブロマンスを書いて出すんです。すごいでしょ？あと2ヶ月で91になる。岩波書店は5年も前から早く書け、どんな内容でももういいから。むのさんの希望通り出すから。あそこ無情だ、15年前から頼まれてまだ書いてない。その大ロマンを欠かせるエネルギーを私に与えたのは、日本の10代です。私が14歳の少女になってすごいラブレターを書く。それが私の思想です。

おわり。

～拍手～

～司会～

びっくりしてしまいました。会場みなさんもそうだと思いますが、こんなに大きな声で話されるとは思ってもいませんでした。ちょっと、唯研の垂れ幕もその気合ですみませんというかごめんなさいとしか言いようがないというか、ちょっと頭を下げてしまいました。休憩伴わないでよろしいでしょうか。あと30分くらい時間がありまして、もし質疑応答などよかったら・・・

～むの氏～

あーそりゃいいね。時間があつたらあるだけ何でも聞いて。(休憩は・・・) いや、いらない、もったいない。いや何か聞きたいことあつたら、もう合えないかしらんからこの機会に。わたし本当はもっと大事なことを言いたいんだ。いやそれは唯物論だから言わなきゃだめだ。

実はま、これを、私はだからあの18(歳)のときから社会主義者になった一と思ってそしてレーニンに惚れ、毛沢東・周恩来に惚れ、そしてずーっと生きて来ました。それだけに、1990年代の初めになってソ連体制があつた当時無残に崩壊し、中国は一党独裁の法律司法制度はあるけど中味はもう爛熟した資本主義に転換してしまつて、ベトナムもそう。私の計算では、社会主義人民共和国とはっきり言ったのは20いくつですが、ほぼそれと同じ意味で人民共和国が一番多いときで37でした。約200カ国の世界中の中で、今社会主義らしいことをやっているのはキューバだけです。それは教育と医療だけは全くタダだということだそうですね。もうあとはない、社会主義はない。これを唯物論の皆さん方はなぜだと?なぜこれを世界中で討論しないんですか?これが不思議なんです。私はそういう生の問題、なぜ70年しかもたなかつたのか、私ども20世紀85パーセント生きて人間からすれば、人類の文化・文字あつて以来の5~6千年の歴史の中で、最大の出来事と言つたら、ソ連革命中国革命じゃありませんか。ロマノフ王朝のあの300年の農奴の生活をあつたような社会に変えた。中国では3000年の農奴の生活を、民衆を人並みに食事できる場所まで持ってきた。これこそが念頭の燦然と輝くものだと思つたら、革命後70年にして、あれよあれよという間につぶれちゃつたでしょ。なんだ。先ほどお話をくださったように、「たいまつ」初めて30年で、朝日や毎日やNHK見たつて人類がどこへ向かっているか何も分からない。自分で歩かなきゃいかんと思つて私は2度ロシアへ行つたり東ヨーロッパを歩きまわつたりしました。

ロシアの体制が崩れると予言した人、学者が1人おられます。私本持つてる。フランスの女性です。理由はイスラム教徒が総人口の2割になると。これは関係があります、今のチェェンのあれなど見ても。だけど理由はそれじゃない。私は1980年代社会主義国歩きながら「あ〜だめだな」と思つた。私はそのときに人の顔を見に行つたんだ。ロシアの農村や都市部を歩きながら、資本主義の世界では生まれない、社会主義だからうまれたという人間が、5~60年以上経っているからどっかにいるはずだと、それに会うために歩いたんだ、女房とふたりで。心のいい人・優しい人・美しい人いっぱいいた、全然それは社会主義とは無関係だ。要するにどこにでもいる人間でしたよ。逆に一番気に食わなかつたのは、中国でも、ロシアでも、権力の人間が威張っているということです。そういう人が通るといえばさあ30分40分、人の車止めて平気だもんね。

1973年、昭和48年、私は中国に呼ばれていった。日本文化会訪華団ちなみに副団長。実は私1人で中国に行こうとしたんです。そしたら大学の夫婦で北京大学に行つた2人が帰ろうとして中国のお偉方に会いに行つたら、会いに行つたときに、ちょっと今名前は忘れましたがまだ今生きておる、中国で、日本では日中友好でなきゃいかんけれども、

中国の共産党政府のやり方に対してあれじゃだめだと言っている人間がいるから、そういう人間も呼んだらいかがですか、と言ったんだって。そしたらそういう人間がいるかと、外交政策、対日政策決める一番のお偉方が、むのたけじでと。彼のことは私ぜんぜん知らないの。そして彼は日本に帰ってきてこういう風に言ってしまったから、もしも連絡があったら行ってくださいと。何にも私は知らない。あとで分かったけど8月から12月には、中国で、私の身边行った先で何をしたか、何を書いたか全部調べ上げて、そしてこの男を呼ぼうということに（なったということらしい）。で向こうからの連絡で、「あなた1人でもいい何十人でもいい。すぐ来てください。すぐ来てくださいって、金も何もないじゃない。そいで、話をした人に、あなたも、そいで、京大の何とかという、学生運動のとき学生の側に立って動いたまだ30いくつの若い助教授がいるというんでその人を連れて行こうというんで、そしたら彼は入学試験の責任者になっちゃって、そいで3月10日の日ならいけるということで3月10日に行った。

行ってびっくりしちやっした、上海行ったら、田中角栄が来てまもなくのころ、私どものホテルが田中角栄を招待したのと同じ、イギリスの元の大金持ちの住宅。そこへ俺1人入れて5部屋だよあんた。はいお茶飲みたいと言ったらしゃーっと出てくる。何なのあんた中国共産党。何なの、共産党政権。なぜ赤の広場にああいう政府の機関をやったの？なぜ毛沢東はあの新京のあの住まいを持ったの？本当に彼らが言うように、民衆のための革命をやる人間なら、民衆の住んでる場所へ、政府も自分らの住まいも持つべきでしょ？何をもっていったか。私はそのときこの体制はもたないと思った、はっきり言って。だけどあんなに早く、90年の初めに、ぶつつぶれるとは思わなかった。

なぜだと思います？理由は簡単明白だ。社会主義ではなかったからです。社会主義は、国家主義にしてはだめでしょ、我々の読んだ書物では。ところがロシアも中国も、ベトナムもみんな富国強兵だもの。そして国家体制で自分らの権力握って、政府のやってるのはいいか悪いか資本主義と同じ GNP で判断したでしょ？最も悪いことは戦争を肯定したことですよ。これを言いたかったんですよ。ねえ。あんた方あらゆる文献の中で戦争を肯定した言葉というのは、ひとつもないですよ。クラウゼヴィッツの『戦争論』、1780年に生まれて、1831年にくたばった、今から160何年も前のプロイセンドイツの軍人の言葉。それだけです、戦争を肯定したの。「戦争は、政治とは異なる手段をもってする政治の継続に他ならない。」岩波文庫に載ってる翻訳をそっくりそのまま、正確に私言いました。分かる？戦争とは、政治とは異なる手段をもってする政治の継続に他ならない。政治と異なる手段をもってしたら、政治とは別でしょ、あんた。なぜそいで政治の継続なの。この論理、これですよ。持っている本はもう上下2巻で私の持っているのは革表紙で。社会主義、唯物論をやった連中はみなこの本を宝物みたいに買ったんだよ。なぜならばエンゲルスがこれを支持した、マルクスも支持した、レーニンが指示した、毛沢東がこれを受け入れ、ホーチミンも受け入れた。

資本主義とまるつきし同じでしょ？それだけじゃない。戦争を通じて革命へ。戦争を、

革命達成のために積極的に利用しよう。だから潰れちゃった。思想というものは怖いねー。ねー！あれだけの強大な権力の構造をつくったのに、あれよあれよという間にババババッと倒れちゃった。倒れただけじゃない、あとに続かないでしょ、あんた。あとから出てくるものがない。ソ連体制が崩れて、それを歴史の教訓として、資本主義を乗り越えた新しい理論を生むはずなのに、どっから出てきてるの？天安門広場で、若者たちが圧迫されてから、中国では何が出てきてるの？私はあの人民大会堂で、1973年、対日外交政策をつくる中国のお偉方200人の前で言いましたよ。

「あんた方だめだ。あなた方何しとるか。日本とは・・・昔から民衆同士は仲間だった。悪いやつは軍閥、財閥だ。こう言ってあなた方説得してるでしょ？とんでもない。南京へきて強姦をやり、火をつけたのは三井三菱の息子じゃねえんだ、我々と同じ労働者・農民、そのせがれたちがここへ来てやってるんだ。だからあんた方みたいに日本の民衆を甘やかすようなことを言ってもらっちゃ困る。あんた方は社会革命やったからそうだろうけれども、こっちの日本人は革命の「か」も言えないんだ。」

先だっの、学生の反日暴動はそうでしょ？毛沢東、周恩来が、日本の敵は軍人、軍閥、財閥だけだといったけれど、小泉が平然と靖国へ何度もお参りに行っている。それを支えているのは日本の民衆ではないか。何でその辻褄合わせをする。だから、反日は同時に反共産党だったんです。今だっそうです。そこの辻褄です。ということは逆に言えばどういふことか。中国は日本の政府はぜんぜん相手にしない、日本の我々民衆も味方だとは思わない。大体3年か4年前に、われわれ日本の民衆にも見切りを付けた。そして、イラン・イラクのあとに来るものは、当然13億の中国市場、10億のインド市場なの。だからアメリカワシントン州にあるアメリカ第一軍団、その司令部800人を座間へ持ってくるともう約束済みでしょ？その第一軍団は、アメリカ軍の、中国からインドまでの作戦を担当する部隊です。もう、第3次世界大戦、大アジア戦争の準備は着々ともう進んでる。だから小泉がやることは何なのか。日本と中国と仲良くさせないことだけですよ、今の自民党は。あんなものぶっ飛ばさなきゃだめだよ、あなた。1億2千万が藻屑になっちゃうよ、このままいったら。

だから、我々はそこで、まあ平和運動で最後の命を懸けていますけれども、だから、戦争は悲惨だ何だ、そんな運動は役に立たない。戦争はいやだじゃないんだ、戦争はやらないやらせない、平和運動でもだめなんだ。私はあんた方に是非、平和主義だな、平和主義という思想を深めて花を咲かせて広めていただきたい。つまり、戦争を必要としない、したがって資本主義の矛盾は別の方法で解決するか、資本主義そのものを否定しなきゃだめ。同時に、ブッシュのような連中がいくら戦争をやりたくても、やれない、戦争はいらない、やらないという、そういう主義、それは人間の生き様そのものにつながってこなきゃだめだ。だから私湯沢で平和塾などやっているのは、もうイベントのようなものじゃだめだ、365日毎日の生き方、夫婦関係・親子・職場・隣近所の付き合い、そこへ平和主義者の俺がこのように考えこのように判断・行動する、地味なそういうことを毎日毎日実行して

いかなきゃいかんのだ、私自身それを心がけて同時に人にも呼びかけているんだけど、それをさっきから思想が語る、書く、本になるは日本にいっぱいあるけど、思想生きてないんだから。哲学者といたら大学で哲学担当の教授がソクラテスはこう言った、カントはこう言ったって講義することでしょ？哲学者はそうじゃないでしょ。自分の哲学を自分の人生で、生きる人間が哲学者でしょ！あんた。ところが日本では哲学者といえば哲学講義者なの。思想家というのは思想の工作者なの。ここを変えなくちゃ。大学の先生方、頼むよ。

私70年代の学生運動の盛んなとき、まあ、山形県の農民の1人が、日本中の大人のなかで学生の立場に立って、彼らの主張を擁護しながら、お前さんたちのやる運動では必ず失敗する、弊害を残すと、真っ向から苦言を呈している稀なる大人は、むのたけじだと、『地下水』という真壁仁の文化雑誌に書いておったんで、それだけは私あーそうかそうだろうと思ったんだけど。本当にあの安田講堂で、目をつぶすあの液体をガガーっと投げるとき、人が死ななきゃならんなら学生じゃなくて俺が死のうと思った。私あそこへいってましたよ、ちゃんと。そのとき以来私予言したの。私は教育問題評論家という風にいわれたぐらい教育問題でものすごい発言した。大学がちゃんとしてもらわなきゃ、日本の中学校、高校、小学校、幼稚園、みんなだめになる。小学から大学まで入るんだけど、教育の状況をどうするか、大学が最上流に位置するんです。大学問題に対してこういう様だと。私はそのとき東京外大の学生セクトに頼まれて外大に行って、話してくれといってみたら、教授が一人も来ないで、家で寝てるというもんだから、学生問題しゃべらずに東京外大の教授のバカヤロウどもと一日中罵倒して帰ったら、次の日、東京外国語大学の教授たちがみな出てきたそうだけれども、なんでそうなるの？バカなの？そのときに私が言ったのは、大学問題に対する日本の大人、教授たち、親たち、文部官僚、みんな駄目だからやがて、高等学校・中学校・小学校がおかしくなっていく、そんなこと言わなきゃいいのに、予言したら、全くそうだったじゃないの、あんた。小学6年の子どもが同じ学年の子どもの首をぶった斬って、血があたり一面に飛び散った。ということは、子どもは後ろから殺されると覚悟していた、その真理はいったい何なのか。その子の親である毎日新聞の記者は、「訳分からん」。わけの分からんようなそういうことが起こる状態。大学紛争から根を発しているんだよあんた。小学生にそういう問題起こるわけないもの。本当に。そいで、庄司さんから大学の先生方が集まって思想の勉強会があるからお前さんがしゃべれと。そしたらそれほど先生方集まってない（会場爆笑）。

～拍手～

司会 時間間違いお詫び

最後にもう一度むのさんに大きな拍手をお願いいたします。

～むの氏～

がんばってください。あなた方のために拍手したい。がんばってください。